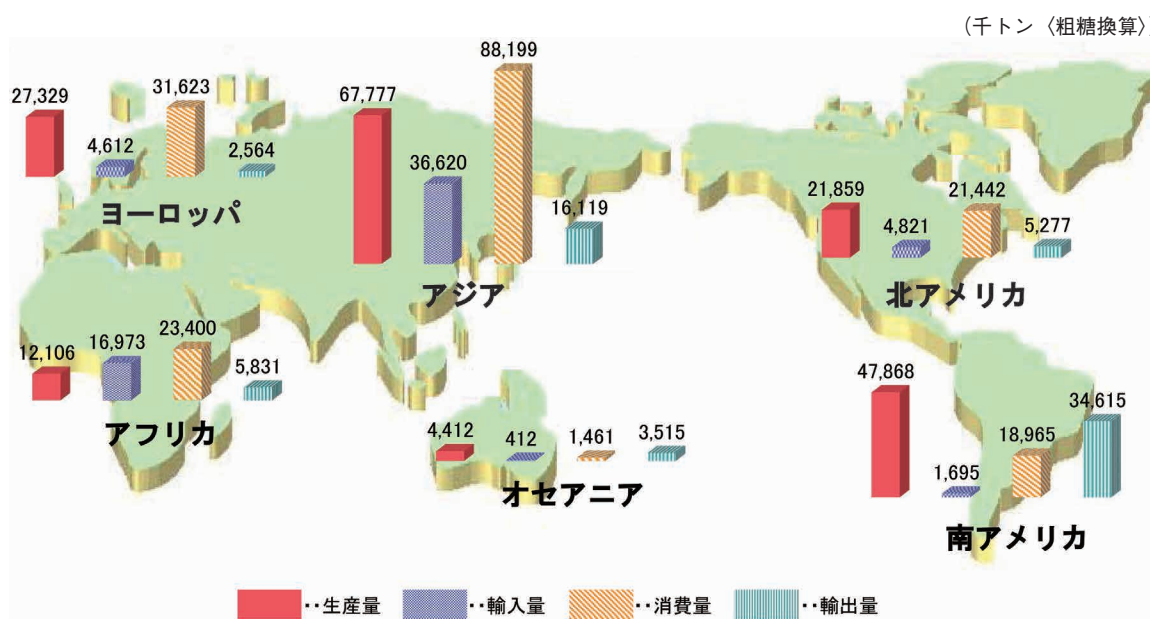


砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇

1. 世界の砂糖需給（2021年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2021年6月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8135万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比0.2%減）とわずかに減少すると見込まれる（表1）。アジアでは前年度を上回る一方、ヨーロッパでは主産地であるフランスやロシアでの減産の影響により前年度を下回る見通しである。

EU、インドネシア、米国などでは前年度より需要の落ち込みが見込まれるものの、インド、中国、ブラジル、パキスタンなどでは需要の回復が予測されることを受け、同年度の世界の砂糖消費量は、1億8230万トン（同0.2%増）とわずかな増加が見込まれる。

また2020/21年度の期末在庫率は、前年度比2.1ポイント減の42.8%と見込まれ、砂糖需給は前年度からわずかに引き締まるものの、引き続き40%台の高い水準が維持される見通しである。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,664	166,769	54,668	165,768	58,206	48,128	29.0
2015/16	73,842	175,955	67,776	178,675	69,077	69,822	39.1
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,522	65,728	181,179	67,620	80,761	44.6
2018/19	80,761	186,527	61,049	183,854	61,307	83,176	45.2
2019/20	83,176	181,801	69,477	181,909	70,731	81,813	45.0
2020/21 (2021年3月予測)	82,578	182,739	66,833	184,380	68,743	79,028	42.9
2020/21 (2021年6月予測)	81,813	181,350	65,135	182,304	67,921	78,074	42.8

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

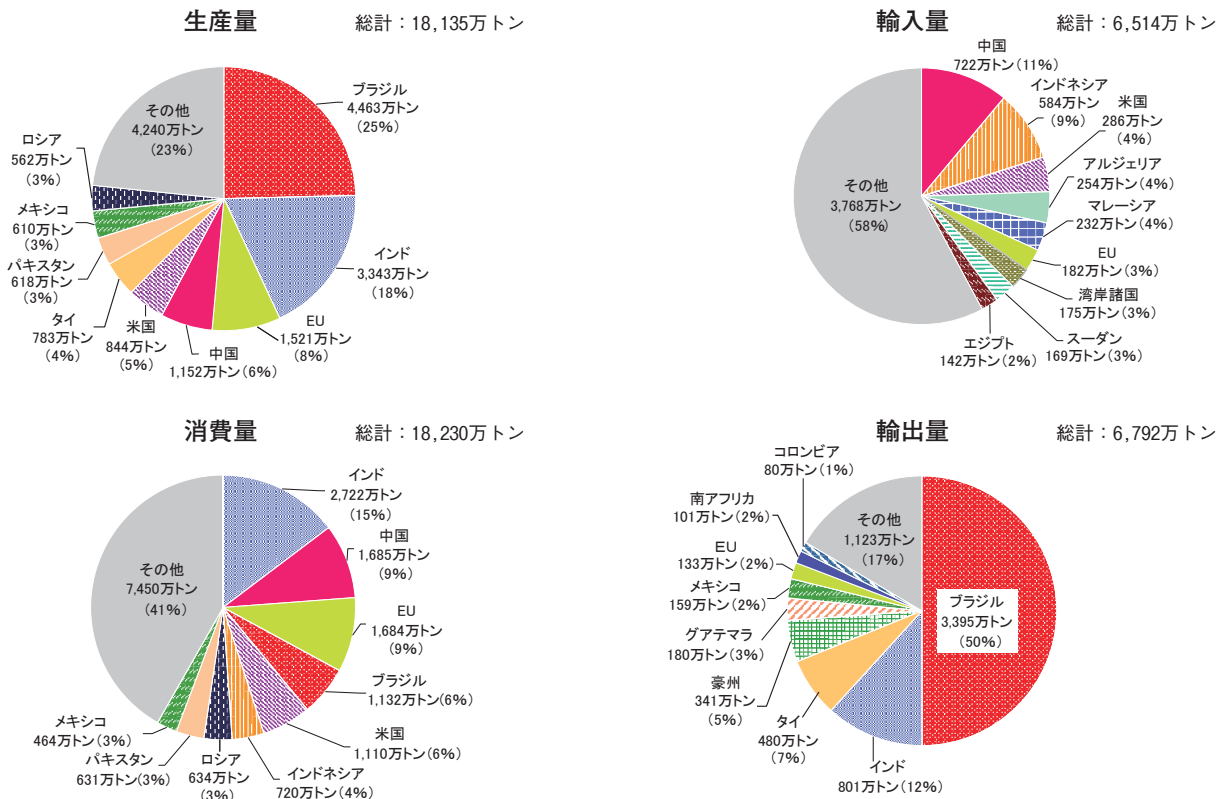
注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2021年6月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2020/21年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2021」

注1：主要国の年度は、各国の砂糖年度。

注2：主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

生産量第1位のブラジルは、サトウキビの単収が例年より高く、ATR（サトウキビ1トン当たりの回収糖分）が2006/07年度以降最高であることや、製糖業者によるエタノールから砂糖への生産の切り替えの動きを背景に、4463万トン（前年度比40.3%増）と大幅に増加し、世界の砂糖生産量の約4分の1を占めると見込まれる（図2）。

インドは、雨季の降雨に恵まれてサトウキビが順調に生育し、収穫作業も順調に進んだことから、3343万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

EUにおいては、フランスで干ばつ^{いおう}の発生と萎黄病^注の流行を背景とした減産が予測されており、EU全体の生産量は1521万トン（同10.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

【輸入量】

輸入量第1位の中国では、砂糖の国内在庫量を積み増すために、ブラジルなどからの輸入糖の需要が増加すると予測されることから、722万トン（前年度比8.1%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

またインドネシアは、砂糖生産量の不足分を輸入で補う状況にある中、国内生産量の減少見込みから、584万トン（同24.7%増）と大幅に増加すると見込まれる。

一方、米国では、寒冷な気候の影響を受けて昨年度のてん菜収穫量が減少したことで輸入量が増加したが、今年度は生産量が回復し、輸入量は286万トン（同25.5%減）と大幅に減少すると見込まれる。

【消費量】

消費量第1位のインドは、個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、2722万トン（前年度比0.4%増）とわずかに増加すると見込まれる。

長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国も、1685万トン（同2.6%増）とわずかに増加すると見込まれる。

またEUでは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による影響で需要が大きく落ち込んだものの、域内でのワクチン接種が進んで、需要は回復傾向にあり、1684万トン（同1.6%減）とわずかに減少すると見込まれる。

【輸出量】

輸出量第1位のブラジルは、COVID-19によるエタノール需要の低下やレアル安が砂糖輸出への意欲を刺激することで、3395万トン（前年度比67.1%増）と大幅に増加し、輸出量全体の5割程度を占めると見込まれる。

また、長年第2位を占めていたタイは、砂糖生産量の3年連続の減少とそれに伴う国内在庫の減少により、480万トン（同41.2%減）と大幅に減少し、結果、今年度は第3位に後退する見通しである。

一方でインドは、COVID-19による物流の混乱は解消しつつあることで、足元の輸出は復調傾向にあるものの、輸出促進策の政府発表の遅延も影響するなどして、結果として前年度ほどの輸出水準には届かず、801万トン（同3.4%減）とやや減少するものの、第2位に浮上する見通しである。

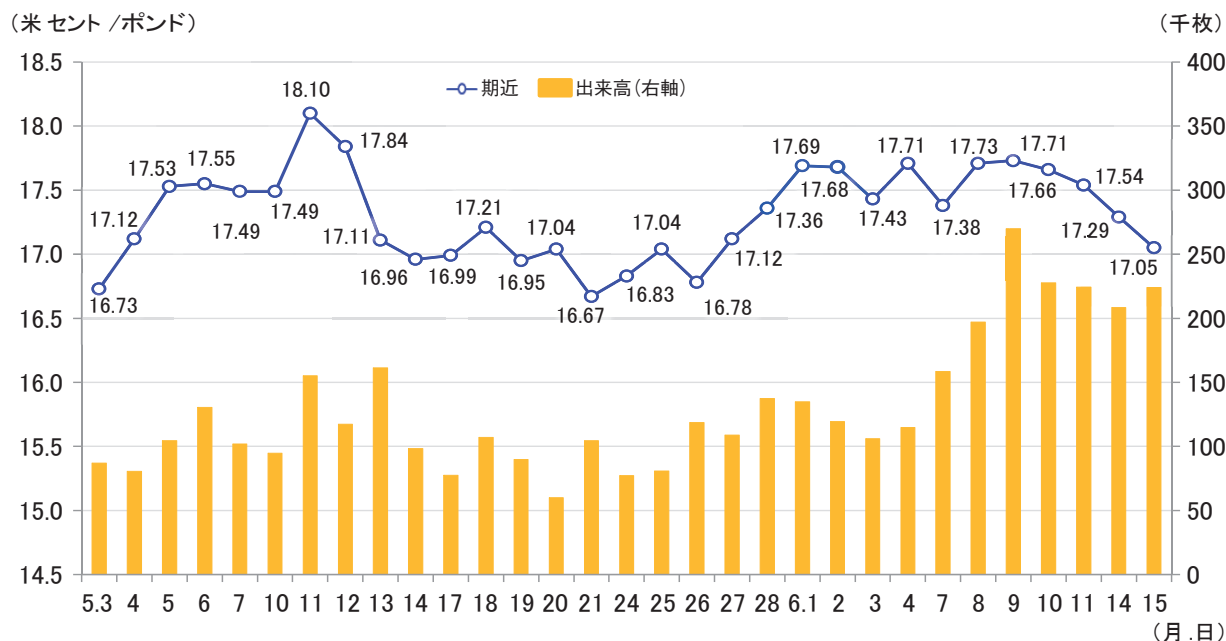
（注）アブラムシによって媒介されるウイルス性の病気で、葉が黄色く変色し、てん菜の単収や砂糖の回収率の低下を引き起こすとされている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（5/3～6/15）

～5月中旬には2カ月半ぶりに18セント台へ乗せるも、6月は17セント台で推移～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：期近7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年5月の推移を見ると（7月限）、5月3日は、インドの砂糖生産実績が前年同期より増加したことで、1ポンド当たり16.73セント^(注1)を付けた。4日以降は、ブラジルの乾燥気候への懸念やブラジルリアルが米ドルに対して上昇したことなどから堅調に推移し、6日は同17.55セントまで値を上げた^(注2)。11日は、ブラジル産砂糖の減少予測や同国におけるエタノール価格の上昇などにより、同18.10セントと2カ月半ぶりに18セント台へ乗せたものの、12日以降は原油価格の下落などに伴い値を下げ、14日は同16.96セントを付けた^(注3)。18日は、ブラジル国家食糧供給公社 (CONAB) が、2021/22年度の同国砂糖生産量が前年度比5.7%減の3890万トンになると予想したことなどから、同17.21セントと

上昇した。21日は、ブラジルの主要砂糖生産地域で週末にかけて20ミリメートルの降雨予報があったことや、ブラジルリアル安となったことなどから、同16.67セントと下落した。28日は、気象予測会社がブラジル主要砂糖生産地域で、6月から8月にかけて降雨量が不足するとの見込みを公表したことなどから、同17.36セントと上昇した。

6月2日は、インド第2位の製糖業者が、2020/21年度の同国砂糖輸出量が過去最高の680万トンに急増するとの見通しを発表したことなどから、同17.68セントを付けた。3日は、国際砂糖機構 (ISO) が発表した2021/22年度の世界の砂糖市場における供給量不足が270万トンとなり、2020/21年度の310万トンの不足からわずかに改善するという予測から同17.43セントと値下がりがした。8日は、

インド製糖協会（ISMA）が、2020年10月1日から翌年5月31日までの同国砂糖生産量が、豊作により前年同期の2701万トンから3057万トンへと前年同期比で13%増加したと発表したことなどから、同17.73セントを付けた。10日は、ブラジルさとうきび産業協会（UNICA）がブラジル中南部における5月後半の砂糖生産量が当初予想の252万トンを上回る262万トンに増加したと発表したことなどから、同17.66セントと下落した。15日は、ブラジル中南部のサトウキビ主要生産地において、前週の降雨量が過去平均値の160%となり干ばつが緩和されるとの期待から、続落して同17.05セントまで下落した。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

（注3）一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も低下する。バイオエタノールの需要低下により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えたと想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2021年6月時点予測）

ブラジル

2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：863万ha（前年度比0.8%減）

生産量：6億100万トン（同8.6%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4048万トン（同9.3%減）

輸出量：2916万トン（同14.1%減）

2021/22年度の砂糖生産量はかなりの程度、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、863万ヘクタール（前年度比0.8%減）とわずかに減少すると見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、生育期間における降雨量が少なく、単収が減少することで、6億100万トン（同8.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖生産量は、国際価格の上昇や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるバイオエタノール需要の不透明感などを背景に、前年度に引き続き多くの製糖業者が砂糖の生産割合を高めると予想されるものの、原料の減産を受けて、4048万トン（同9.3%減）

とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産を背景に、2916万トン（同14.1%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

ブラジル砂糖企業、ハラル認証取得で売上増を目指す

ブラジルの大手砂糖企業のEnergy社は、ハラル認証機関（FAMBRAS HALAL）により同社の砂糖の製造・包装工程および納品業者から供給された全ての製品がハラルに準拠していると確認され、約3カ月の審査期間を経てハラル認証を3月12日に取得した。取材に対し同社の部門責任者は、今後2年間でイスラム諸国での売り上げを3倍に伸ばすこ

とができると述べていると、現地報道は6月8日付けで伝えた。

同社は、同国の砂糖企業で唯一、主要輸出港であるサントス港に自社のコンテナターミナルなどを有する商社で、ひと月当たり約2万トンの砂糖を生産し、その半分を輸出に回し、輸出先は110カ国に

上っている。

同社によると、現在、イスラム圏向けの輸出先国はアラブ首長国連邦、ギニア、ソマリアなどに限られるが、イスラム諸国への輸出拡大を視野に、国内外の需要増に対応するため、近い将来、生産能力を増強する意向であるとしている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

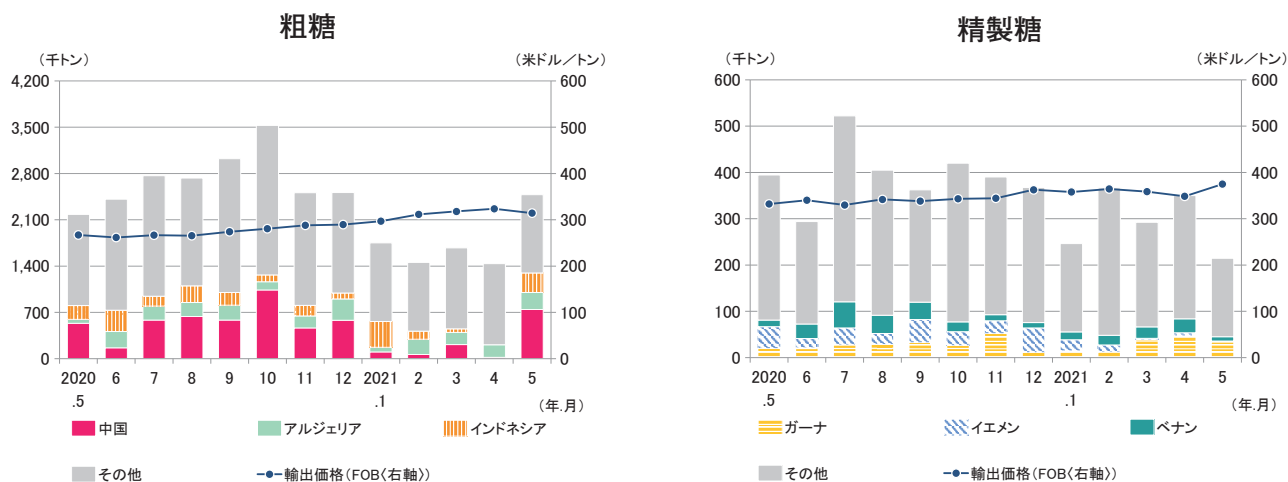
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (5月予測)	2021/22 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,707	8,705	8,633	▲ 0.8%	
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,462	605,000	601,000	▲ 8.6%	
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,632	41,180	40,480	▲ 9.3%
	輸入量	3	2	2	3	2	▲ 17.3%
	消費量	10,635	10,812	11,321	11,325	11,325	0.0%
	輸出量	21,017	20,321	33,947	29,850	29,158	▲ 14.1%
	期末在庫量	239	913	279	222	279	▲ 0.1%
	期末在庫率	0.8	2.9	0.6	0.5	0.7	0.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：489万ha（前年度比5.3%増）
生産量：4億249万トン（同8.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3343万トン（同13.6%増）
輸出量：801万トン（同3.4%減）

2020/21年度は増産するも、輸出促進策の発表の遅れなどを受け、輸出量はやや減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた前年度からの反動で、489万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。ウッタル・プラデーシュ州で赤腐病（red rot）^{（注1）}の被害が確認されているものの、マハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期（6～9月）における降雨が潤沢であったことから、サトウキビ生産量は4億249万トン（同8.9%増）とかなりの程度、砂糖生産量は3343万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、COVID-19による物流の混乱は解消し

つつあることで、足元の輸出は復調傾向にあるものの、輸出促進策の政府発表の遅延も影響するなどして、結果として前年度ほどの輸出水準には届かず、801万トン（同3.4%減）とやや減少すると見込まれる。

（注1）真菌の感染によって引き起こされる病気で、茎の内部が腐り、赤色に変色する。サトウキビの単収や砂糖の回収率に深刻な影響を与えるとされている。

（注2）インド政府の2020/21年度における砂糖の輸出政策の経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年11月号のインドの項「ISMA、2020/21年度における砂糖の輸出政策の早期発表を首相官邸に要請」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002327.html）も参照されたい。

表3 インドの砂糖需給の推移

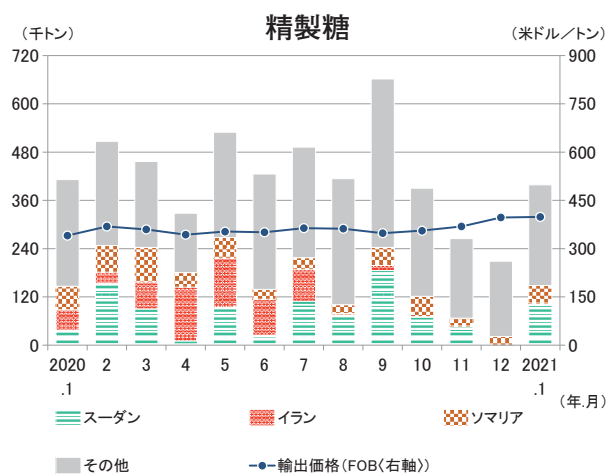
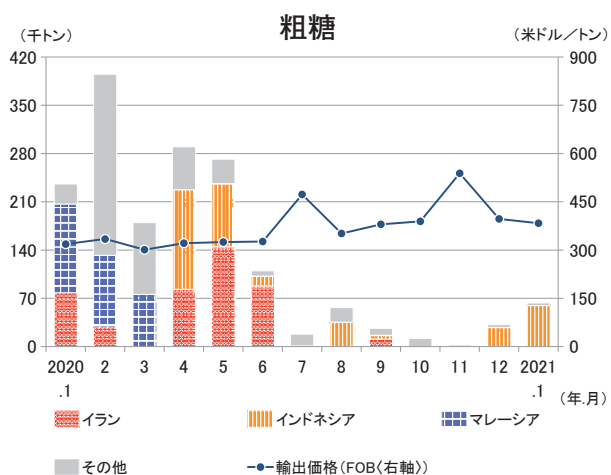
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 （5月予測）	2020/21 （6月予測）	前年度比 （増減率）	
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,642	4,888	4,888	5.3%	
サトウキビ生産量	404,399	404,528	369,637	402,491	402,491	8.9%	
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	32,995	33,426	13.6%
	輸入量	2,308	664	1,687	1,188	1,080	▲ 36.0%
	消費量	27,421	27,540	27,108	27,216	27,216	0.4%
	輸出量	2,360	5,483	8,288	7,683	8,007	▲ 3.4%
	期末在庫量	11,523	14,962	10,689	9,973	9,973	▲ 6.7%
	期末在庫率	38.7	45.3	30.2	28.6	28.3	1.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量 (累計) 上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 116万ha (前年度比1.6%減)

生産量: 7360万トン (同3.5%減)

【てん菜】

収穫面積: 23万ha (同8.8%増)

生産量: 1238万トン (同13.6%増)

【砂糖 (甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量: 1152万トン (同2.3%増)

輸入量: 722万トン (同8.1%増)

2020/21年度の輸入量は、かなりの程度増加する見込み

2020/21年度 (10月～翌9月) のサトウキビの収穫面積は、雲南省では面積の増加が見られるものの、広西チワン族自治区と広東省での面積減少を受けて、116万ヘクタール (前年度比1.6%減) とわずかに減少し、サトウキビ生産量も、7360万トン (同3.5%減) とやや減少すると見込まれる (表4)。また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げら

れたことから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール (同8.8%増) とかなりの程度増加すると見込まれ、てん菜生産量も、単収の増加に伴い、1238万トン (同13.6%増) とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1152万トン (同2.3%増) とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、722万トン (同8.1%増) とかなりの程度増加すると見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

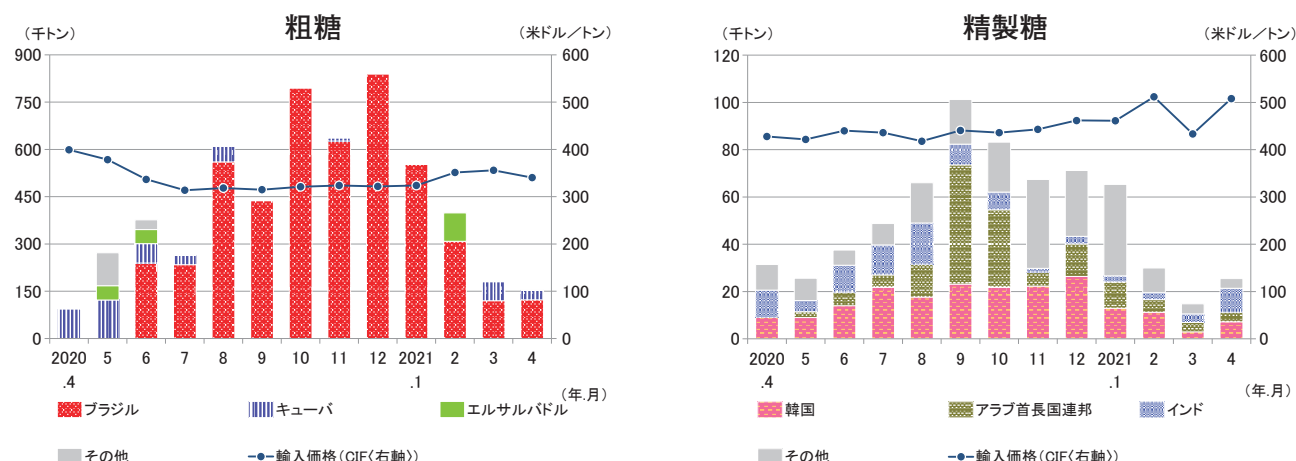
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (5月予測)	2020/21 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,157	1,157	▲1.6%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	76,231	73,600	73,600	▲3.5%	
てん菜収穫面積	186	243	213	231	231	8.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	12,380	12,380	13.6%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,258	11,476	11,520	2.3%
	輸入量	6,033	5,053	6,685	6,594	7,224	8.1%
	消費量	16,414	16,522	16,414	16,849	16,849	2.6%
	輸出量	182	210	192	170	170	▲11.5%
	期末在庫量	11,273	11,233	12,571	13,623	14,296	13.7%
	期末在庫率	67.9	67.1	75.7	80.1	84.0	8.3ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

E U

2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：148万ha(前年度比2.8%減)

生産量：9946万トン(同9.6%減)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1521万トン(同10.3%減)

輸出量：133万トン(同7.5%減)

2020/21年度の輸出量は、かなりの程度減少する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は148万ヘクタール(前年度比2.8%減)とわずかに減少すると見込まれる(表5)。てん菜生産

量は、EU最大のてん菜生産国であるフランスで感染が広がる萎黄病の被害を受けて、9946万トン(同9.6%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。てん菜生産量の落ち込みにより、砂糖生産量は1521万トン(同10.3%減)とかなりの程度減少す

ると見込まれる。輸出量は、砂糖生産量の減少によって輸出余力が低下し、133万トン（同7.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

フランス、ネオニコチノイド系農薬に代わる薬剤の確保に苦慮

フランス食品環境労働衛生安全庁（ANSES）^{（注1）}は6月2日、てん菜の種子処理に使用するネオニコチノイド系農薬に代わり、単独での使用で効能が確認できる薬剤の特定ができなかったことを発表した。

EU最大のてん菜生産国であるフランスでは、てん菜の萎黄病により、砂糖産業の生産量が大幅に減少している。同病にはネオニコチノイド系農薬が有効とされているが、ミツバチの激減を背景に、生態系に強い悪影響を及ぼす懸念から同農薬のてん菜への使用を禁止した。しかし、萎黄病の流行を抑制するため最長で2023年まで同農薬の緊急使用を認め、これまで同国では、同農薬を使用しない方

法について模索してきた。

ANSESによると、現時点においては同農薬の使用に置き換わる短期的な解決策として4種^{（注2）}が確認されたとするが、これら代替策のほとんどは、単独で使用した場合、ある程度の効果を示すものの、経済的に許容できるレベルまで被害を減らすには不十分だとしている。

（注1）ANSES（Agence nationale de sécurité sanitaire de l'alimentation, de l'environnement et du travail）は、健康・農業・環境・労働・消費者問題省の傘下で、健康、安全問題を担当する各機構をサポートするために、食品、環境及び職場のリスク評価を行う政府機関。2010年7月にフランス食品衛生安全庁とフランス環境労働衛生安全庁が合併した組織。

（注2）従来の農薬製品（2種）とアブラムシの数を減らすための2つの農業技術（マルチングと有機肥料）を挙げている。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

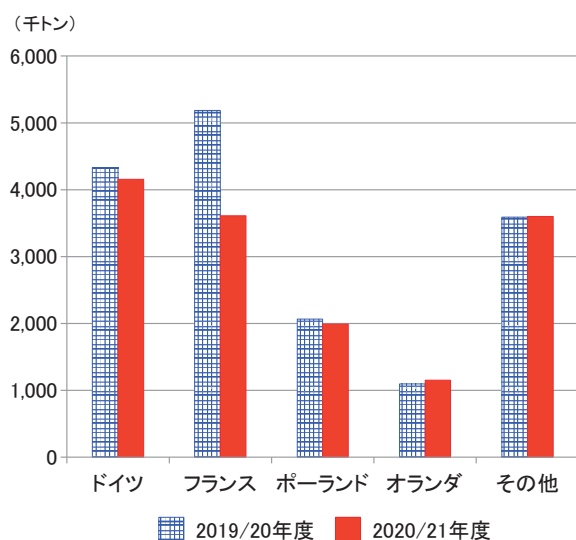
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 （5月予測）	2020/21 （6月予測）	前年度比 （増減率）	
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,474	1,475	▲ 2.8%	
てん菜生産量	130,930	104,224	110,038	99,114	99,455	▲ 9.6%	
砂糖	生産量	20,353	17,083	16,954	15,155	15,212	▲ 10.3%
	輸入量	1,566	2,349	2,230	1,850	1,818	▲ 18.5%
	消費量	17,451	17,546	17,108	16,841	16,839	▲ 1.6%
	輸出量	4,270	2,391	1,436	1,307	1,328	▲ 7.5%
	期末在庫量	2,208	1,704	2,344	1,204	1,207	▲ 48.5%
	期末在庫率	10.2	8.5	12.6	6.6	6.6	6.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

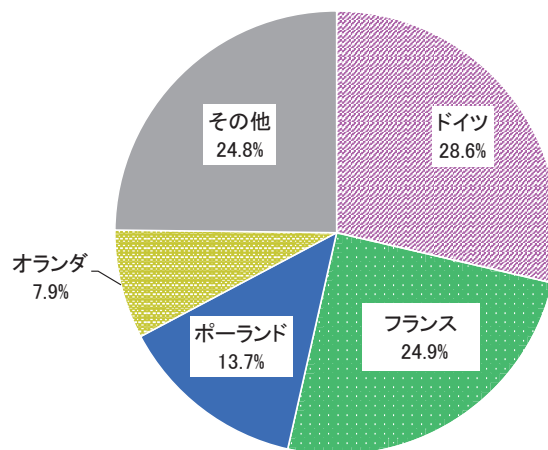
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年4月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2020/21年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2020/21年度の予測値に基づく割合。

5. 日本の主要輸入先国の動向 (2021年6月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.5%減）
生産量：2950万トン（同5.2%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：418万トン（同4.6%減）
輸出量：314万トン（同8.1%減）

2021/22年度の砂糖生産量は、やや減少する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.5%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、ここ数カ月のラニーニャ現象による豪雨などの不安定な気候が生育に悪影響を及ぼし、

2950万トン（同5.2%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、生育不良などによるサトウキビの品質低下を受けて418万トン（同4.6%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、314万トン（同8.1%減）と、依然減少傾向が続くと見込まれている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (5月予測)	2021/22 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	379	364	361	355	355	▲ 1.5%	
サトウキビ生産量	32,493	30,044	31,123	29,500	29,500	▲ 5.2%	
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,384	4,181	▲ 4.6%	
	輸入量	18	16	20	18	▲ 10.0%	
	消費量	1,057	1,056	1,036	1,062	2.5%	
	輸出量	3,562	3,449	3,413	3,136	▲ 8.1%	
	期末在庫量	958	763	718	768	719	0.2%
	期末在庫率	20.7	16.9	16.1	18.3	17.1	1.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：139万ha（前年度比18.8%減）

生産量：6666万トン（同11.0%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：783万トン（同11.1%減）

輸出量：480万トン（同41.2%減）

2020/21年度の輸出量は、前年度比4割減の見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前期作でのキャッサバなどの代替作物の収益性が高かったことから、今期作では代替作物がより多く作付けされたことにより、139万ヘクタール（前年度比18.8%減）と大幅に減少すると見込まれる（表7）。加えて今期のサトウキビ生産量は、前期に続き干ばつの影響を受け、6666万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの品質が向上したものの^(注)、サトウキビ生産量が落ち込んだことで、783万トン（同11.1%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は480万トン（同41.2%減）と大幅に減少すると見込まれる。

(注) タイ政府の焼き畑抑制政策により、焼き畑によるサトウキビ収穫量が減少したため。焼き畑を行うと、サトウキビに含まれるショ糖が分解され、CCS（可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合）が低下する。

砂糖貿易の非関税化をベトナムに要請

タイ現地紙によると、タイ政府のラクサナウイシット商務大臣は6月7日に行われたベトナムの駐タイ大使との会談で、タイからの砂糖輸入に対するベトナムの貿易救済措置の緩和と二国間貿易の拡大に協力するよう要請した。

ベトナムでは2020年にタイ産粗糖の輸入量が急増し、国内の砂糖産業に悪影響を及ぼしているとして、2021年2月、同国はタイ産粗糖の輸入に対するアンチダンピング（AD）関税の暫定発動を発表した。また、6月15日には、タイ産の砂糖製品に対するADおよび相殺関税（CVD）に係る調査結

果を発表する予定であり、この結果を踏まえ、タイ産の輸入砂糖に対し、51%（うち、AD：42.99%、CVD：4.65%）の課税が適用される見込みとされている。なお、ベトナムはASEAN物品貿易協定

（ATIGA）に基づき、2020年1月からASEAN諸国から輸入される砂糖の輸入関税を5%に引き下げていた。

表7 タイの砂糖需給の推移

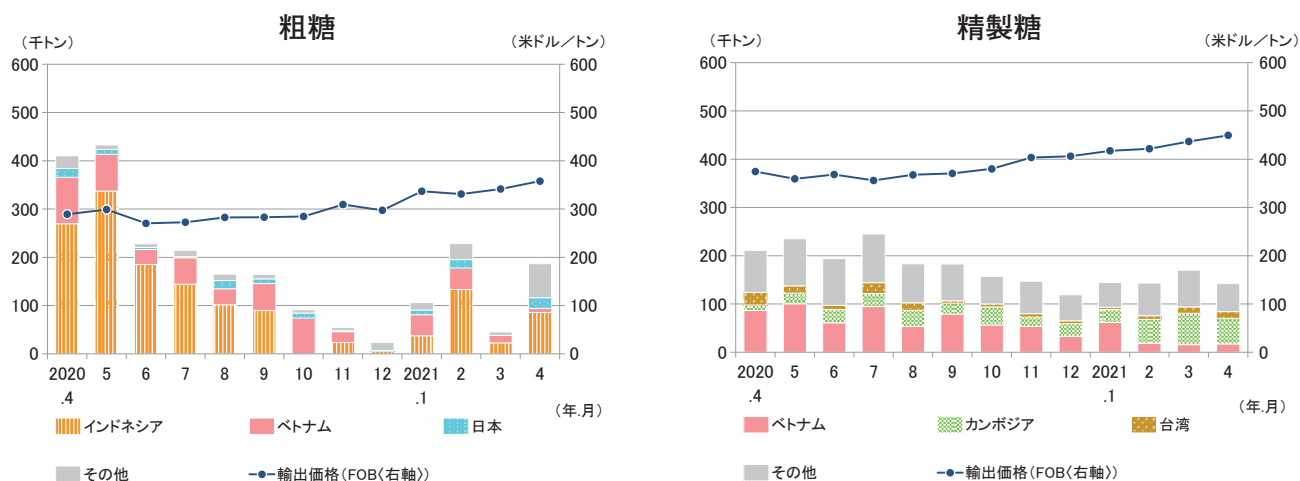
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (5月予測)	2020/21 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,714	1,392	1,392	▲ 18.8%	
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	66,659	66,659	▲ 11.0%	
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,837	7,829	▲ 11.1%
	輸入量	5	4	59	23	48	▲ 18.7%
	消費量	3,434	3,737	3,773	3,700	3,700	▲ 1.9%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	4,803	4,799	▲ 41.2%
	期末在庫量	6,289	7,899	4,830	4,187	4,209	▲ 12.9%
	期末在庫率	47.4	57.0	40.5	49.2	49.5	9.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。